

平成 27 年大磯町議会

3 月定例会一般質問（2 月 26 日・27 日）

質問議員	質問事項（1 日 目）	答弁者
1 10 番 竹内恵美子議員 (60 分) 9:05～10:05	1. 「ふるさと納税」について 昨年 9 月定例会でも質問したが、その後、「ふるさと納税制度」を国は拡充する方針を決めたが、本町の進捗状況は。 (1) 本町の寄附金の収入は。 (2) 本町の「ふるさと納税制度」の推進は。 2. 平成 25 年に寄附された横溝千鶴子邸の進捗状況は (1) 現在、維持管理はどのようにされているのか。 (2) ご本人の意思はどのようなだったか。 (3) 将来的な構想はいかがか。 3. マリア道の拡幅に伴い、周辺の土地利用はどのようにしていくのか 近年、農地所有者の高齢化や担い手不足により遊休農地や荒廃農地が増えている。特に大磯町だけが増えているというのではなく、町全体として検討はされていると思うが、マリア道の拡幅に伴い、通過交通等の利便性はよくなると思うが、農地等に雑草が生い茂り、イノシシ等の獣害被害も出ていると聞いている。 このような状況で周辺の農地の利活用についてはどのように考えていくのか。 (1) 農地の利活用について用途が限られているのは分かるが、市民農園事業はもっとできないのか。 (2) 地域特産物としてどのようなものを考えているか。 (3) 地域活性化を促すためにどのようなことを進めているのか。 (4) 特に専門家を招いたり、提言やアドバイザーを考えないのか。	町 長 町 長 町 長

2 8 番 高橋富美子議員 (80 分) 10:25～11:45	1. 町立国府幼稚園は存続すべきではないか (1) 町立幼稚園 4 園を公立 2 園、私立 2 園とする計画は、いつ、どのような根拠で出されたのか。 (2) 今現在と過去 20 年間（5 年毎）の園児一人に対する税投入額はいくらであったか。 (3) 幼・保・小・中の連携した教育の意義をどのように考えているか。 2. 「子育てで選ばれる町！おいそ」の実現に向け、具体的な方策はどうか (1) 「少子高齢化、人口減少」は喫緊の課題と捉えるが、町の対応策はどうであるか。 (2) 若い人達の定住の促進策は。 (3) 観光における「日本一住みやすい町 大磯」というキャッチフレーズがあるが「日本一子育てしやすい町 大磯」を掲げることは。 3. 現在整備している公共トイレについて問う (1) 公共トイレで最優先される機能とは何か。 (2) 4 つの公共トイレ（いくさわ西の池跡公園トイレ、高麗公衆トイレ、六所公園トイレ、町屋公園トイレ）の整備状況と整備に要する額はどうか。 (3) 今後の町内における公共トイレの整備予定はどうであるか。	町 長 教育長 町 長 教育長 町 長
3 2 番 二宮加寿子議員 (60 分) 13:00～14:00	1. 地方創生戦略の推進について 「まち・ひと・しごと創生法」として少子高齢化と人口の減少への歯止めや、東京圏の人口の過度の集中を軽減することが考えられている。地域の資源を生かし住みよい環境を確保して地域の活力の再生を国が支援するものだが、 (1) 「まち・ひと・しごと」を創生する戦略を立てる、人材の確保は。 (2) 定住対策の推進と現状、今後のあり方は。 (3) 結婚・出産・子育て・教育の環境整備の現状と今後のあり方は。 (4) 地域における魅力ある多様な就業の機会の取り組みは。 2. 中学校給食の実施について 町は中学校給食をデリバリー給食の導入と決定された。今後のスケジュールと対応について伺う。 (1) 全員給食としたがアレルギー対策は。 (2) 食の安全から地産地消が良いと思うが、現状と課題は。 3. 地域包括支援について 2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症になると推定されている。早期の診断・診療体制の整備など本人や家族の視点を重視した施策があげられた。相談窓口の整備や居場所づくりなどの支援は。	町 長 町 長 教育長 町 長

4 15番 清水 弘子議員 (90分) 14:20~15:50	1. 歩いて楽しいまちづくりを進めては (1) 電線の地中化により国道1号線沿いの眺望はよくなり、冬の富士山は大きく見える。反面、街路樹が少なくなり、夏の魅力が半減している。 ①一里塚的なクロマツの植栽を増す計画は。 ②夢の地下道から大磯駅へのJR沿いのコンクリート塀に壁面緑化を考えてはどうか。 (2) 公園と公園を結ぶルートに消費カロリーと距離、健康遊具を記した歩きやすいマップづくりを考えてはどうか。 (3) 県道大磯・相模原線の歩道整備と街路樹の計画は。 2. 地域包括ケアシステムの構築についての現状と課題について 第六期大磯町高齢者福祉計画（介護保険事業計画）案では、予防給付の一部（訪問介護・通所介護）を介護予防・日常生活総合事業へ移行し多様化するとある。また、介護予防の担い手をNPO、ボランティアなど地域の支えあい体制づくりを推進とあるが、具体的にどのように地域に広げていくのか。高齢者が多い地域（赤坂台・石神台）で空き家などピンポイント的にモデル事業として進めるのか。 軽度の認知症の方も多くなると思う。要である恒道会の認知症対応型デイサービスやショートステイの利用は改善されたか。 3. 葬儀場等の管理運営について、協定は住民の要望に沿ったものになるか 湘南大磯ホール（葬儀場）が平成26年12月11日に竣工された。その後から、交通安全について町との取り決めや住民との約束が守られず、危険な状況があった。近隣住民よりサンライフに要望書が出された。 また、町に対しても近隣住民より協定書を交わすよう申し入れがあると聞いている。協定は住民の要望に沿ったものになるか。 4. 救急車の出動状況と今後の課題は 大磯町は県下の町村で救急車の出動が多い自治体である。 (1) 出動件数、事例、年齢層は。 (2) 今後の課題は。	町 長 町 長 町 長 町 長
---	--	---

5 6 番 片野 哲生議員 (30 分) 16:10～16:40	1. 大磯町の過去の歴史における地域の活性化を踏まえ、大河ドラマ等における本町にゆかりのある人物及び、歴史的建造物を活用した交流を進める考えはあるか 大磯町は、古くは高句麗との交流や江戸時代における東海道五十三次の第8番目の宿場町として繁栄を極めてきた。 また、明治時代には本町の自然環境を愛した伊藤博文初代総理大臣が当地に住居を構えるとともに、各界の名士が別荘地として利用していた。 過去にこのような環境において地域経済の発展がなされてきたが、本町にゆかりのある人物やその歴史的建造物を有する利点を十分に活用して、新たな地域経済の活性化を行っていく必要があると考える。その一つの手法「きっかけ」として、大河ドラマ等における人物及び歴史的建造物の活用があるとする。 現在、NHKの大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹「文」の生涯をドラマ化したものであるが、松下村塾の門下生として伊藤俊輔・のちの博文が登場する。本町にとっても重要な題材となりえると思われる。伊藤博文とその住居であった「滄浪閣」の活用等についても、一考すべきと思うが町の考え方はどうか。	町 長
--	--	------------

質問議員	質問事項（ 2 日 目 ）	答弁者
6 1 2 番 関 威國議員 (60 分) 9:00～10:00	1. 県下で 1 番高い電動生ごみ処理機補助金 6 万円は税の公平性と効果に疑問あり ごみ処理広域化における課題の一つに家庭ごみ排出量の減量化がある。目標は平成 32 年度 1 人 1 日あたり 8 %以上の減量である。大磯町は減量化対策の一つとして電動生ごみ処理機補助金制度があり、平成 22 年～25 年の 4 年間で 53 台、年平均 13 台が補助金で購入された。全世帯数 12,800 戸を分母とすると 0.4%で効果はゼロに近い。申請件数が少ないなかで、平成 26 年度は前年の 7.5 倍の 900 万円を予算計上し県下で 1 番高い補助金であるが、税の公平性と効果に疑問があり質問する。 (1) 電動生ごみ処理機の導入目的と普及台数・ごみ減量目標は。 (2) 補助金制度の他市町村との比較は。 (3) 町民税等の滞納者には補助しない制度になっているか。 (4) 大磯町・平塚市・二宮町の家庭ごみ減量化の実態は。 (5) 平成 27 年度の家庭ごみ減量化対策の内容は。 2. ごみ出し代行料 1 回 2 千円は高いと町民が批判 平成 26 年 11 月の議会報告会で、高齢者の安否確認を兼ねたごみ出し支援 1 回 2 千円を業者に払うのは、常識的に考えても高すぎると町民から意見が出され、納税者が納得できる内容でないと批判された。この件については平成 24 年 9 月 20 日の決算特別委員会で指摘し、平成 25 年度予算編成時に業者と見直し交渉を要望したが、見直しされず現在に至っている。税金が適正に使われ町民のために運用されているか質問する。 (1) ごみ出し支援事業の目的と経緯は。 (2) 対象世帯の要件と対象世帯数は。 (3) 1 回 2 千円に決めた数字的根拠は。 (4) 利用者の人数、年間総費用、1 人当たりの年間費用は。 (5) 平成 27 年度以降はどうするのか。	町 長 町 長

7 3番 渡辺 順子議員 (80分) 10:20～11:40	1. 自治基本条例の充実を図られるか (1) 平成 26 年 3 月議会で条例改正と運用の充実を図るために、必要な制度を検討すると答弁があったが、どのように検討されたか。 (2) 補完条例として住民参加条例が必要と考えるが。 (3) 情報の共有と公開について。 (4) 町民活動を活性化するための拠点整備・既存施設の有効利用について。 2. デリバリー給食実施にあたって問う 平成 27 年 1 月 13 日の政策会議において、中学校給食の実施、デリバリー方式（調理・配送委託）、生徒全員給食を決定したと報告があった。保護者からは全員給食にこだわる説明に納得がいかない、自校方式実施までなら良い、などさまざまな声が届いている。 保護者の納得は得られたのか。 (1) スケジュールについて。 (2) アレルギーについてはしっかりと対応すると言われたが、どのように対応するのか。 (3) 食材の安全性や放射性物質の検査についての考えは。 3. 公共施設の老朽化にともなう再整備計画の進捗は 公共施設等の老朽化に伴う再整備は町にとって最重要課題である。平成 25 年 11 月に将来コスト試算について説明があり、平成 26 年度に「公共施設の（再編）計画」を策定すると報告を受けた。その後の進捗はどうか。	町 長 町 長 教育長 町 長
--	---	--

8 7 番 吉川 重雄議員 (90 分) 13:00~14:30	1 恒道会の正常な法人運営の為に、行政が果たすべき役割とは何か (1) 恒道会の法人運営の実態把握の状況を問う ① 町は「平成 25 年度決算書が平成 26 年 11 月中に県に提出されたことを確認した」と答弁したが、町はその決算内容を確認したか。また、その決算内容に問題はあったか。 ② 町は「理事長に面談し利用者の安全を確保することを話している」と答弁したが、町が求めた安全確保とは具体的にどのようなことか。 また、県は所轄庁として適正な指導を行っているか。県行政をチェックする役割の地元県議員にアプローチしなかった理由は何か。 ③ 町は「恒道園に入所されている方、並びにその家族の不安と心配は改善されていない」と答弁したが、具体的にどのようなことがあり、改善されていないのか列挙せよ。 また、継続している問題により、現在、利用者及び利用しようとしている町民への影響が出ているのかどうか。出ているならば、その原因は何か、保険者である町としての認識を明確に答えよ。 ④ 社会福祉法人に対する「監査」とはどういうものか。町は県が指導監督権限を持っていると答弁したが、町は県が適切に恒道会を指導監督していると認識しているか。 社会福祉法人の管理監督について、町が介護保険の保険者としての役割を果たすためには、具体的にどのようなことを行うのか。 ⑤ 法人の憲法ともいうべき「定款」の違反等が疑われる現在の恒道会の不適切な法人運営について、国・県・町に告発書が出されているが、対応は適切に行われているのか。 平成 27 年 1 月 23 日、恒道会の役員等（理事・評議員・監事）の任期が満了したが、新しい役員等の体制や人選について、町はどの程度把握しているか。 また、平成 24 年に町が推薦して恒道会の理事になった人物は、新しい役員体制でも理事になっているか。 (2) 神奈川県や二宮町との連携の状況を問う 平成 26 年 12 月 26 日に県・大磯町・二宮町とで恒道会について協議が行われたと聞いた。この件について問う。 ① この協議は、どこから呼びかけがあったのか。 ② この協議はどこで開催され、どのような役職者が出席されたのか。 ③ この協議の目的、議題、協議した内容はどのようなものだったか。 ④ 三者での協議会は今後も継続していくのか。 ⑤ 問題解決に向けた二宮町・大磯町の共通認識への取り組みは、平成 26 年 11 月に二宮町長が変わったが、継続していくことの確認は取れているのか。 (3) 恒道会の職員への処遇に対する大磯町の認識を問う ① 恒道会が行っている職員二人への処遇について、裁判の一審・二審判決、県労働委員会の命令、地位保全仮処分決定という 4 つの公的機関が「二人への処遇は不当である」という判断を下しているが、法人はその決定を無視し続けている。このような法人の対応を町はどのように認識しているのか。 ② 困難な状況の中、介護現場の職員は非常に辛抱強くサービス提供に取り組んでいる。職員の状況を改善するために、町は具体的に何をすべきだと考えているか。	町 長
--	---	------------

9 13番 鈴木 京子議員 (90分) 14:50～16:20	1. 駐輪場建設について問う 建設工事については反対したところだが、以下の点について問う。 (1) 1台あたり約33万3,000円の建設費になった理由は。 (2) 利用料の考え方は。 (3) 建設に向けた各方面からの意見の活かし方に問題はなかったか。自治基本条例の見直しを含め、問う。 (4) 東駐輪場解体の設計委託は必要か。また更地にした後の利用はどうするのか。	町長
	2. 総合相談窓口の設置について問う 幅広い世代の特性や生活状況から発生する相談事は多岐に渡る。ワンストップでできる制度の周知や解決策の提案等ができる総合相談窓口の設置が必要と考えるが、町の考えを問う。	町長
	3. 中学校給食の進め方について問う 町は基本的に生徒全員を対象とし、デリバリー方式を進める考えを示したが、自校方式の位置付けが見えてこない。また、課題・調整の進め方を問う。	町長 教育長
	4. マリア道整備凍結の考えはないか問う マリア道の新設・改良工事は補正予算の計上に始まり、何年にもわたり不用額を出す、繰越をするなどしながら予算執行されてきた。以下の点を問う。 (1) 今までの予算・決算状況の総括を国の財源を含め、明らかにされたい。 (2) 今後の見通しはどうか。 (3) 関連し、湘南新道の考え方を問う。	町長

9名 24問

※時間は、事情により変更になる場合がありますのでご了承ください。